

(第1面)



産業廃棄物処理計画書

令和5年5月31日

香川県知事 殿

提出者

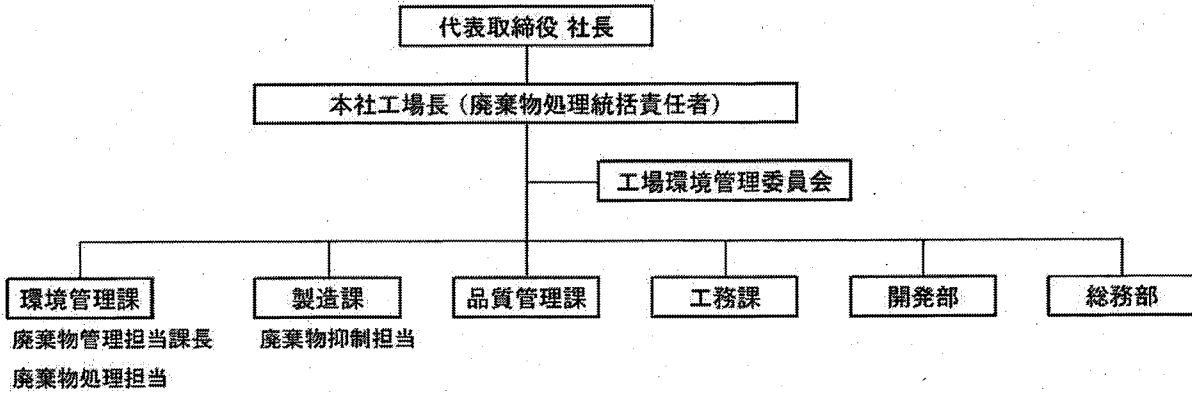
住所 香川県丸亀市中津町1676番地
氏名 株式会社 伏見製薬所 本社工場
代表取締役社長 伏見豊
電話番号 0877-22-6231

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	株式会社 伏見製薬所 本社工場
事業場の所在地	香川県丸亀市中津町1676番地
計画期間	令和5年4月1日から令和6年3月31日まで
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	製造業
②事業の規模	前年度の売上高 32億円
③従業員数	83名
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙1の通り

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度 (令和4年度) 実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙2の通り	
	排出量	別紙2の通り	t
	(これまでに実施した取組) 別紙2の通り		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙2の通り	
	排出量	別紙2の通り	t
	(今後実施する予定の取組) 別紙2の通り		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 別紙2に記載した種類毎に分別、保管している。 使用済み金属製ドラム缶、プラスチックコンテナ容器は有価物として分別している。 廃油および廃プラスチックに関しては有価物化の有無、廃酸及び廃アルカリに関しては活性汚泥処理の有無に分別し、保管している。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 現状を継続し、適正な管理を行う。

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	— t
	(これまでに実施した取組) —		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	— t
	(今後実施する予定の取組) —		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	— t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0 t	— t
(これまでに実施した取組) —			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	— t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	0 t	— t
(今後実施する予定の取組) —			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	— t
	(これまでに実施した取組) —		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	— t
	(今後実施する予定の取組) —		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙2の通り	—
	全処理委託量	別紙2の通り	— t
	優良認定処理業者への処理委託量	別紙2の通り	— t
	再生利用業者への処理委託量	別紙2の通り	— t
	認定熱回収業者への処理委託量	別紙2の通り	— t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	別紙2の通り	— t
	(これまでに実施した取組) 別紙2の通り		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙2の通り	—
	全処理委託量	別紙2の通り	— t
	優良認定処理業者への 処理委託量	別紙2の通り	— t
	再生利用業者への 処理委託量	別紙2の通り	— t
	認定熱回収業者への 処理委託量	別紙2の通り	— t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	別紙2の通り	— t
	(今後実施する予定の取組) 別紙2の通り		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。

こと。

- (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。

- (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。

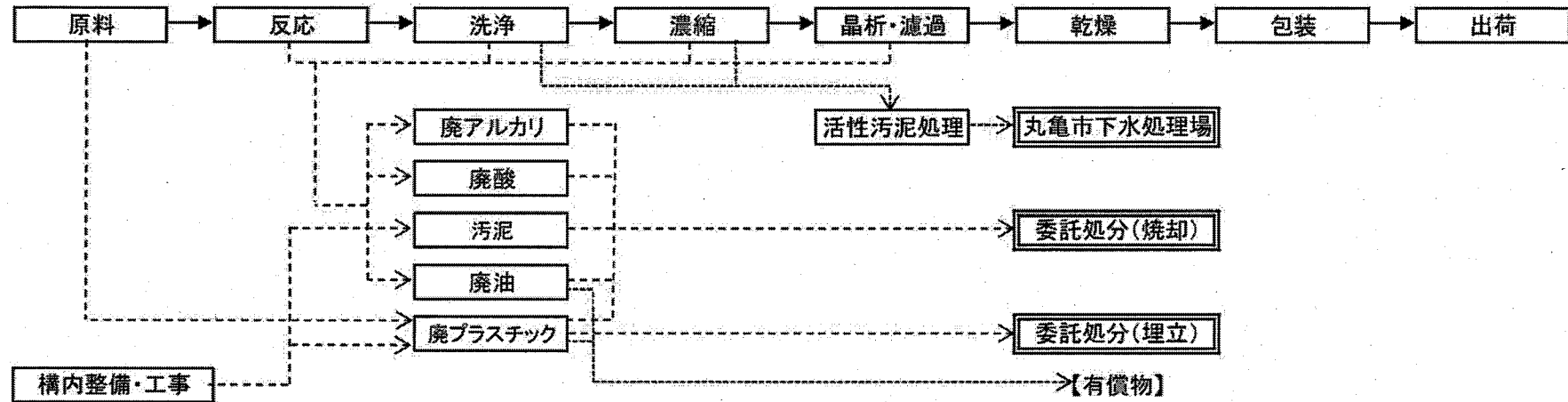
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。

- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。

- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。

- 7 ※欄は記入しないこと。

【別紙1】 ④産業廃棄物の一連の処理の工程



【別紙2】

(第2面) 産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状 【前年度(令和4年度)実績】

産業廃棄物の種類	廃アルカリ	廃酸	廃油	廃プラスチック	汚泥
排出量	327 t	312 t	210 t	132 t	76 t

(これまでに実施した取組)

- ・回収溶媒の再使用または再利用。
- ・廃油を分別し、有価物として販売。有価物としての引き取り先を拡大。
- ・洗浄水量の削減による排水量の低減。
- ・廃酸および廃アルカリの活性汚泥処理による排出量の削減。
- ・金属製ドラム缶、プラスチック製コンテナを有価物として販売。
- ・段ボール、新聞、雑誌、紙等を古紙回収業者へ販売。
- ・裏紙利用の推進。

②計画 【目標】

産業廃棄物の種類	廃アルカリ	廃酸	廃油	廃プラスチック	汚泥
排出量	230 t	120 t	210 t	130 t	70 t

(今後実施する予定の取組)

- ・回収溶媒の再利用、再使用の拡大。
- ・廃油の有価物販売先の拡大。
- ・活性汚泥処理対象廃液の拡大。

上記に示した取組みを実行し、廃棄物量の削減に努める。

(第4面)(第5面) 産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状 【前年度(令和4年度)実績】

産業廃棄物の種類	廃アルカリ	廃酸	廃油	廃プラスチック	汚泥
全処理委託量	327 t	312 t	210 t	132 t	76 t
優良認定処理業者への処理委託量	327 t	312 t	210 t	132 t	76 t
再生利用業者への処理委託量	—	—	—	—	—
認定熱回収業者への処理委託量	—	—	—	—	—
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	—	—	—	—	—

(これまでに実施した取組)

- ・優良な廃棄物処理業者の選定。
- ・新たな回収再生処理業者の検索。

②計画 【目標】

産業廃棄物の種類	廃アルカリ	廃酸	廃油	廃プラスチック	汚泥
全処理委託量	230 t	120 t	210 t	130 t	70 t
優良認定処理業者への処理委託量	230 t	120 t	210 t	130 t	70 t
再生利用業者への処理委託量	—	—	—	—	—
認定熱回収業者への処理委託量	—	—	—	—	—
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	—	—	—	—	—

(今後実施する予定の取組)

- ・新たな回収再生処理業者を検索する。